

前期計画期間の振り返り

資料	結果	評価・分析	後期計画の策定方針案
①住民満足度 (資料 1-2)	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる分野において満足度の低下 (13) 居住年数 20 年以上 : 71.8% 暮らしやすさ : 55.6% (26) 定住意向 : 81.3% (27) 暮らしやすい点 (30) : 人間関係や自然環境 暮らしにくい点 (31) : 買い物や交通の不便さ、福祉や医療の不自由さ 	<ul style="list-style-type: none"> 回答者の 6 割が 65 歳以上 暮らしやすさを感じている人は減少傾向にあるものの、8 割を超える定住意向 暮らしやすい点は「人とのつながり」や「自然環境」など従来からあるもの 暮らしにくい点は、暮らしに直接かかわりのある分野のものであり、特に基盤(ハード)整備を伴うもの 	基本構想の堅持 <ul style="list-style-type: none"> 東栄町で暮らし続けたいと考える人が、暮らし続けられる町にする。 暮らしやすい点を強みにし、暮らしにくい点を改善に向け見直す。
②計画の進捗 (資料 1-3)	<ul style="list-style-type: none"> 数値目標の未達成 (基本施策 35/59 未達) 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価及び外部評価を行い、毎年見直し改善をしながら、進めている。 	7つの基本目標の達成に向けた見直し <ul style="list-style-type: none"> 基本構想の実現に向けて、引き続き 7 つの基本目標達成に向けて取り組む。
③人口推移 (資料 1-4)	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少傾向は継続 人口構成比率のゆがみ 合計特殊出生率の減少傾向 平成 30 年度社会増 直近 5 年の年少人口割合の微増 小中学生数の維持 将来展望人口の上振れ 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の割合が多いことから今後も減少が見込まれる。 町外で出産し、子どもが小学校入学前に転入するケースがみられる。 移住定住施策及び関わる人の動きによる成果 	暮らしの安心安全の整備 (強化と再構築) <ul style="list-style-type: none"> 成果は次のステップへ、課題は再度の見直しを 暮らしたい人をみんなで支える 暮らしたいと思える環境を整える
④その他	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり基本条例の施行 (平成 30 年 4 月) 三遠南信自動車道の開通 (平成 24 年 3 月 鳳来峡 IC・平成 31 年 3 月 東栄 IC 等) 新型コロナウイルスの発生 		今後に向けた新しい視点 <ul style="list-style-type: none"> まちづくり基本条例の理念についての明確な位置づけ 高規格道路等の整備による今後の見通し 町の暮らしやすさや特徴を活かした「東栄町の新しい生活様式」の定義、実現、定着へ

